

平成28年度教頭専門部会県外視察研修会 報告書 誠恵高等学校 教頭 飯島修

- 1 研修日 平成28年6月6日(月曜日) 13時~15時30分
- 2 訪問校 成城中学校・高等学校(栗原 卯田子校長)
- 3 視察者 浜松学芸中学・高等学校 内藤 純一校長他20名の副校長・教頭他
- 4 視察報告

成城中学・高等学校は明治18年に創設され2015年で130周年という伝統のある、私立の中・高一貫教育の男子進学校である。「校訓」や「学習十五則」を礎とする「授業第一主義」や「自学自習」など、堅実な校風がある。勉学と部活動等とを両立させる「文武両道主義」の伝統は創立以来、例えば「臨海学校」は大正時代から受け継がれている。これらの伝統ある男子教育を軸にして、一人ひとりの生徒に基礎・基本をきちんと身につけさせ、確実な学力、思いやりの心、逞しい体力を育て、生徒の希望する進路実現をめざしている。

#### ◎成城中学・高等学校の教育

① 校訓 自学自習 実質剛健 敬愛親和 自治自立

② 教育目標

みずから積極的に学問に打ち込み、みずから規範を守り、他者を尊敬し、強い信念を持つ人格者を育成する。

(一人ひとりが教育目標を自覚し、意義ある学校生活を送ることにより、真の自由な校風が作り上げられている。)

③ 成城版グローバル教育の展開

成城版グローバル教育は単に英語を話せるようにすることも、海外を経験させることではなく、それ以上に大切な「自己の確立」を目指した「キャリア教育」を展開している。具体的な取り組みとしては「エンパワーメント・プログラム」をカリフォルニア大学と提携して実施している。アメリカから学生を本校に招き、論議、企画、発表をすべて英語で行うことを通して、生徒がこれからの時代を生きるために、自信を付け、チームワークやコミュニケーションの力、挑戦する勇気や強い精神力を身につけて、自己確立をめざすプログラムである。

5 全体を通しての感想・意見等

・携帯電話の校内持ち込みを全面禁止しており、徹底出来ている事には驚かされた。

日常のコミュニケーションを通して情報交換をしている。その為必要がない。

・都内の学校でありながら、部活動が40以上もあり、積極的に生徒が参加している。まさに、文武両道をとっている。

・校内の食堂は、朝から開いており、10分休みも利用可能であるにもかかわらず、授業中の飲食もなく徹底出来ている事には驚かされた。

・臨海学校を通して高校生(2年生)の先輩達が、中学生(1年生)を指導する教育をしている。リーダーシップをとれる生徒を褒め称え、自信を持たせている。

期日：平成28年6月7日（火）

沿革：八王子高等学校は設立から88年の伝統校。近年、公立進学校の脅威や入学者減少に伴い、定員確保のために5年前に中学の新設に至る。

規模：男女共学で、今年度は高校1572名、中学224名の在籍

コース：文理コース〔特進、選抜、進学〕総合コース〔文化、音楽、美術〕  
また、アスリートコースと生徒の志望に沿ったコース選択が可能。

○第一部 小山貢校長先生によって学校の理念、指導方針等の説明がありました。  
昔と比較して生徒は夢を持たないので、生徒には「夢を持とう！」と呼びかけ、その達成感を大切にして生徒を成長させていこうとする考えである。  
全職員の協力を得て、主に次のテーマについて取り組んでいる。  
1つ目は「グローバル教育とアクティブラーニング」であり、もう一つは「ICT教育」である。

①特徴あるグローバル教育、アクティブラーニングについて

中3での語学研修（豪州アデレード12泊10日）があり、1人でのホームステイで生徒の自立を促し、授業はそのまんまアクティブラーニングである。  
また、校内にはネイティブ5人がおり、内1人は正規の免許状を持つ。  
探求ゼミという名目で、中1の資料収集、中2の発表、中3では書くこと、即ちアウトプット型生徒の育成を段階を踏んでの取り組みが見られる。  
また、日本人としてのアイデンティティを確保し、国際人としての素養を充実させることにも力を入れている。

②「ICT教育」について

今年度からタブレットの導入（中1の69人、1人7万円、全家庭Wifi導入確認済み、学内セキュリティあり）  
Googleを活用し、教材は教師の自主制作も多い。（パワーポイントなど）  
デジタル教科書を導入している（：数研 体系数学、英語：三省堂クラウン）  
教員の研修は出版社主催で行った。  
また電子黒板を活用しており、まずは書画カメラから入る方が教員が慣れ、徐々にタブレットを導入する方が良いのではないかとの提案がありました。

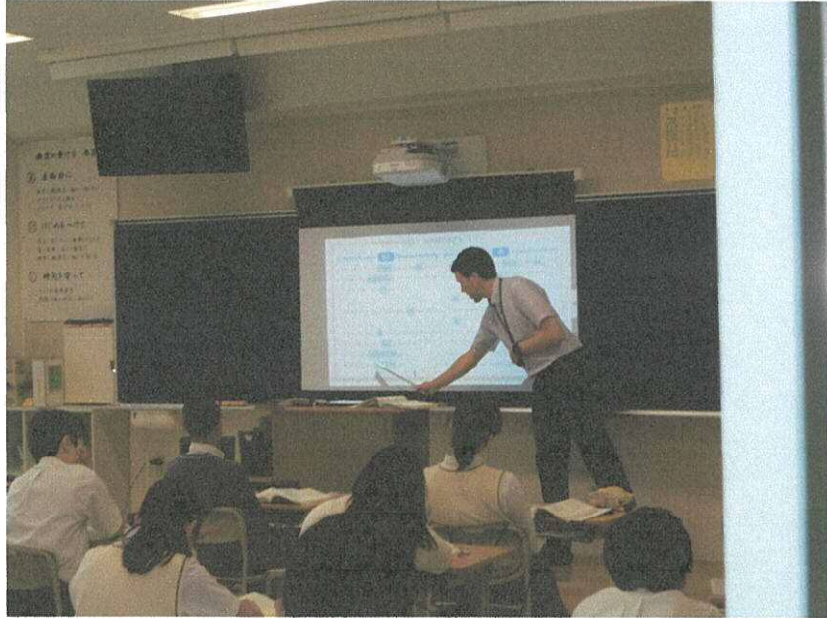
③その他のトピック

△今年度の中1より、東大・医進コース（初年度は14名）日能研ss50以上  
今年度の説明会は人数増加はこの影響かもしれない。

△高校イノベーションということで

- ・EEP 2年次より進学の準備を始め、卒業生のチューター、そして塾と2年契約をして、進路指導を軌道に乗せていく。
- ・週末課題を課し、やらないと月曜の部活中止を徹底。
- ・河合塾サテライト タブレット（今年よりアクセスポイントに変更）
- ・東大プロジェクト Z会の費用は学校負担とのこと
- ・主権者プロジェクト 民主主義を学ぶ

- 第二部 中学教頭の見世先生 高校教頭の北川先生 校長の小山先生 の3班に分かれて校内施設見学。下の写真は電子黒板を用いたヒューズ先生の授業。この教材はパワーポイントで作成とのこと。



- 第三部 中1主任で国語科の谷口先生と英語教師（日本の免許取得：日大通信）ヒューズ・グレゴリィ先生の説明

- 谷口先生 ①電子黒板の課題・・・生徒はまだ飽きてはいないが飽きることを想定して授業に工夫が必要。導入して寝ている生徒は皆無になった。（教科書を見ているふりができないからと思われる。）  
②個人持ちタブレット（中1）は3：7でHRと授業で使用。  
③タブレットでは全員対全員の情報交換・意見交換に活用できる。  
④グーグルドライブや「すらら」というソフトを利用。英検対策ソフトも入っており、授業等でも活用している。  
⑤ポータルサイトによる情報発信ができる。生徒、保護者の別のコードがあり、それぞれに別に情報の伝達ができる。

ヒューズ先生

- ①電子黒板の活用の具体例とメリット  
英単語カード、写真関連教材を自己作成している。  
教科書拡大が瞬時にでき板書時間を省き、時間効率化、生徒集中。  
②週1回タブレットにて、クロスワード、英作文や並び替えをやる。生徒のモチベーションがアップし、書く工夫も見られる。  
③家での利用は課題や模試対策、また youtube の活用もしている

補足 : 職員会議をペーパーレスにしたところ、会議で寝る教員が激減！